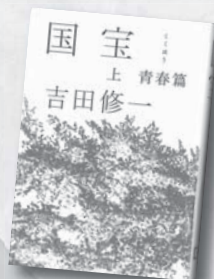


図書館だより

ピックアップ

一般



国宝 上、下
吉田修一／著
朝日新聞出版

任侠の一門に生まれながらその美貌と才能で歌舞伎の道を究める立花。スキャンダルと栄光、歓喜と絶望の先に何が見えるのか。作家生活20周年、取材を重ねた話題作。【葦山】

児童



ゴンちゃん、またね。
ビートたけし／作・画
文藝春秋

うだつのあがらない作家志望の則之。柴犬のゴンと過ですひと時が唯一の安らぎだったのに、ある日、ゴンが行方不明に。大人のための孤独と慈しみの寓話。【中央】

開館時間（共通）9：00～17：30

問 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

問 葦山図書館 ☎ 055-949-8605

URL http://www.izunokuni.library-town.com/

12月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	③	4	5	6	7	⑧
9	⑩	11	12	⑬	14	15
16	⑰	18	⑱	20	21	⑳
23	㉔	25	26	27	㉘	㉙
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	1/5

○中央休館日 □葦山休館日
◇両館休館日 ☆おはなし会

12月のおはなし会・おたのしみ会

中央図書館 ★8日（土）11：00～
葦山図書館 8日（土）14：00～
★22日（土）14：00～
くぬぎ会館こども広場
13日（木）11：00～
★は、冬のおたのしみ会です。

新着本コーナーから

- 一般 宴の前 堂場瞬一／著【中央・葦山】
- 一般 はしからはしまで 一みとや・お瑛仕入帖ー 梶よう子／著【中央】
- 一般 一緒にお墓に入ろう 江上剛／著【葦山】
- 一般 さかな三味 ー港町で評判の魚がうまい店ー 静岡新聞社／著【中央】
- 一般 ふたつのオリンピック ー東京1964／2020ー 口バート・ホワイティング／著【葦山】

お知らせ

年末年始の休・開館日について

12月28日（金）／葦山図書館のみ開館
12月29日（土）～1月3日（木）／両館とも休館
1月4日（金）／中央図書館のみ開館
※休館中の返却はブックポストをご利用ください。CD、DVDなどもブックポストに返却できます。

こどもの本の勉強会（全5回）

第4回 絵本への入口（赤ちゃんとお母さん）

とき／平成31年1月20日（日）10：00～11：30

ところ／中央図書館2階 視聴覚室

対象／子どもの本や読み聞かせに興味のある人30人（先着順・参加無料）

内容／赤ちゃん絵本の勉強をします

講師／村上慶子さん（ぬまづこどもの本を学ぶ会）

申し込み方法／12月11日（火）から窓口

または電話で申し込み

問 中央図書館 ☎ 0558-76-5566



参加無料！

申し込み不要！

冬のお楽しみ会

① 中央図書館（☎ 0558-76-5566）開催

とき／12月8日（土）11：00～11：45

ところ／2階 視聴覚室

内容／参加型のおはなし、絵本の読み聞かせなど

協力／星の会

② 葦山図書館（☎ 055-949-8605）開催

とき／12月22日（土）14：00～15：00

ところ／幼児図書室

内容／エプロンシアター、大型絵本の読み聞かせなど

協力／かみふうせん

文化財通信

その162

江川坦庵公と「実用専務」の精神

問 文化財課

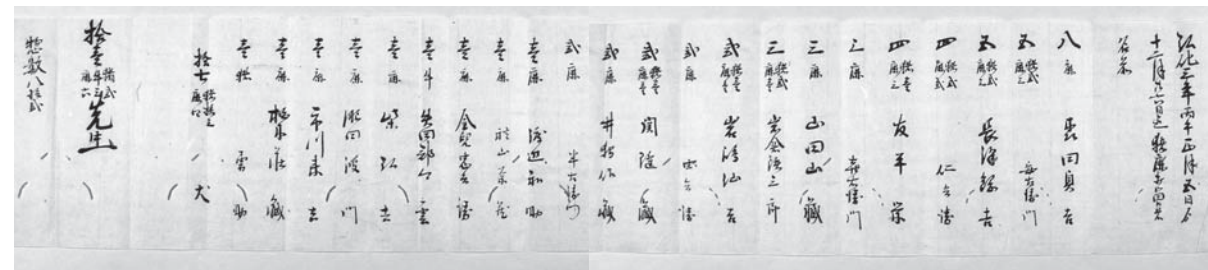
☎ 055-948-1428

江川坦庵公の座右の銘が「忍」であったことはよく知られていますが、同じく大切にしていた言葉がもう2つあります。「敬慎第一」と「実用専務」です。

「敬慎第一」とは、読んで字のごとく「人を敬い、自らを慎むことを第一とせよ」ということ。常に自らを厳しく律するとともに、人に対して公平に接した坦庵公らしい言葉と言えるでしょう。

「実用専務」もまた、文字どおり「実践すること」を専らとせよ」という意味。どのような学問や技芸も、机上の学習だけでなく、実践が伴わなければならないという強い信念です。

この「実用専務」の精神をよく表しているのが、坦庵公主催の「葦山塾」でしばしば行わ

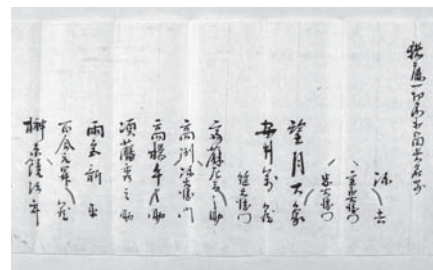


弘化三年丙午正月五日より十二月廿六日迄猪鹿打留候者名前（公益財団法人江川文庫所蔵）①

れた「山獵」です。これは、最新の西洋砲術を学ぶために全国各地から入門してきた塾生と、葦山代官所に勤める手付・手代ら部下を率いて、坦庵公自ら天城や箱根の山中に分け入り、泊まりがけで狩猟に赴くという、まさに山中行軍の実地訓練でした。

山野に伏し、道なき道をたどり、日頃鍛錬した射撃の腕で猪や鹿を仕留める。これこそ「実用専務」そのものです。さらに坦庵公は、塾生たちが互いに競い合つて腕を上げていくためのしかけを施していました。それが、誰が一番多くの獲物を仕留めたかをまとめた「年間ランキング」です。

弘化3年（1846）のランキングを見ると、手



②

付・手代らのうち、森田定吉が8頭でトップ、塾生の中の最高は、友平栄（※）の4頭となっています。その一方で、ランキングの末尾には「猪・鹿一切仕留めざる者名前」として、「獲物ゼロ」の不名誉な記録も載せられています。

ここに名前が載つた者たちは、「来年こそは」と雪辱を誓つたに違いありません。

では、坦庵公の成績はどうだったのでしょうか。ランキングを見ると、なんと11頭を仕留めています。さすがに別格の腕前です。この坦庵公による「実用専務」の教えのもと、幕末から明治維新後にかけて活躍する、数多くの人材が巣立っていったのです。

※壬生藩士。坦庵公に初期に弟子入りした高弟の一人で、後進の指導に力を発揮するとともに、壬生藩（現栃木県壬生町）の軍制改革にも尽力した。